

大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行=財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06(6876)8800 FAX06(6876)8686 http://www.iiclo.or.jp

子どもの育成を支える児童文化施設として

人材の育成を実現し支えるには 地域社会や家庭の教育力と、行政による その基盤の構築・強化が不可欠です。



財団法人大阪国際児童文学館
理事長
松居 直

明治維新前後、西日本における政治勢力と大阪の経済力は、その先見性と実行力と相まって、日本の封建体制からの脱却と近代化にめざましい役割を果たしました。その後も大阪を中核とした産業と社会構造の充実、交通と情報体制の発展は、都市の現代化と国際化を促すとともに、アジア地域との交流の推進力となりました。さらには、教育や保育、学術文化の面での充実とともに、芸術や芸能分野でも主導的な役割を果たしてきました。

政治も経済も産業もそれを支え発展を促すのは究極的には人の力に盡きます。それには人間性と創造力豊かな、なによりも精神性と知性をしっかりと身につけた人材の育成が鍵です。それを支えるのは地域社会と家庭の教育力で、行政が子育ての基盤をいかに構築し強化するかにかかっています。

大阪府は1984年5月5日のこの日に、大阪府立国際児童文学館を設立しました。これは大阪府が子育てについて国際的な広い視野に立ち、教育と文化に対して洞察力のある歴史認識をもって、ゆたかな未来を実現できる子どもの育成を支える第一級の児童文化の施設を創設したということであり、国内外から高く評価されました。

その後、四半世紀に渡り、資料の網羅体系的な収集・保存・公開、子どもの本と読書活動に関する実践的な研

究、国際交流、府民へのきめ細やかな子どもの読書活動支援などを行って参りました。しかし、大変残念なことに、設立者である大阪府によって、当館は廃止・府立中央図書館に移転、財団への事業委託も打ち切りの方針が示されています。

私は国際児童文学館が独立した機関として現在の機能を維持していくことが、その貴重な文化財を保存し、発展させ、大阪のみならずわが国の将来を担う人材育成の象徴となると確信しております。当館としては、引き続き現地存続の理解が得られるよう全力を尽くしていく所存です。今後ともご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



07年11月18日に、第11回国際グリム賞授賞式および記念講演会が行われました。国際グリム賞は、財団法人金蘭会および大阪府立大手前高等学校

ZOOM UP! 第11回 国際グリム賞 ジョン・スティーヴンス博士が受賞

同窓会金蘭会との共催で、国際的分野で児童文学界に貢献した研究者に対し、隔年で贈られる賞です。
第11回受賞者は、児童文学研究における理論派として活躍するジョン・スティーヴンス博士(オーストラリア・マコーリー大学教授)に贈られました。講演会のテーマは「グローバルに児童文学を語ろう―世界的視野(グローバル)と地域性(ローカル)―」で、約70名が参加しました。



第12回手塚治虫文化賞 特別賞受賞

秋山朝日新聞社からアトム事務局長に贈呈されたアトム像(写真提供:朝日新聞社)

日本のマンガ文化に大きな足跡を残した手塚治虫の業績を記念する手塚治虫文化賞(朝日新聞社主催)の第12回特別賞を受賞しました。特別賞は、マンガ文化の発展に貢献した個人・団体が対象で、当館は四半世紀にわたる貴重なマンガや児童書の横断的な収集と研究が評価されました。6月12日に東京会館で開かれた贈呈式に出席し、鉄腕アトムのブロンズ像と賞状、賞金が贈呈されました。当館では、開館前の1981年に手塚治虫氏にご講演いただきましたが、深い縁を感じます。今回の受賞を手塚氏からの激励と受けとめ、さらなる努力を重ねてまいります。

なお、賞金を活用して、ご自宅に「手塚治虫コーナー」を設置し、日本はもちろん、世界各国で出版されている手塚マンガを貸出用に用意する予定です。

●国際絵本フォーラム 「世界の絵本の現在」

07年8月、国際児童文学学会がアジアで初めて京都で行われ、世界各国の子ども本の研究者が集いました。当館では、その中からオーストラリア・カナダ・デンマーク・韓国・英国等全11カ国の児童文学研究者に、その国で最も注目している絵本を紹介していただく国際絵本フォーラム「世界の絵本の現在」(8月28日)を行いました。一人ずつ、スクリーンで絵本を写しながら、内容や魅力、おすすめ理由などをお話いただきました。

海外から14ヶ国67名、国内から102名、計169名の参加がありました。当日は、参加国の翻訳絵本とアジアの絵本を展示しました。なお、海外からの参加者には、終了後、館内見学案内と日本児童文学史のミニレクチャーを行いました。

●「タイの絵本」をテーマに3企画実施
①報告集「タイの絵本」の作成
「絵本」や「タイ」に対する理解を深め、研究を促進するため、4本の報告と座談会の記録を日本語・タイ語・英語の3カ国語で出版しました。

②タイの絵本の貸出用セット作成
タイ絵本の魅力を伝えるため、4つのテーマに沿ったタイの絵本66冊を選出し、解説付きリストを作成しました。

③子ども向きおはなし会の開催
●キワニス文庫報告

07年6月19日に大阪キワニスクラブ会長四方大中氏より国際交流を目的とした50万円が当館の北田常務理事に贈呈されました。1982年から寄付をいただいておりますが、07年度は、日本と同じ環太平洋地域であるオーストラリア・ニュージーランドの絵本を104冊購入、ご自宅の貸出図書としていただきます。

資料

国際交流事業の二環として
アジアの絵本貸出セット

05年度より、国際交流事業の一環として、アジアの絵本セットの作成と団体貸出を行っています。最新の作品から厳選した絵本を、翻訳があるものは日本語版もあわせて無料で貸し出しています。韓国絵本Aセット(81冊)、Bセット(103冊)、中国語圏の絵本セット(112冊)に加え、新たにタイの絵本セット(65冊)を用意しました。学校での異文化教育の教材や、図書館での展示などにご利用ください。

企画展示と
公共図書館用展示パック

①「台湾絵本の、今」中国語圏の絵本と日本の絵本」/4月1日~29日(監修:中由美子・中国児童文学翻訳家)

古書紹介

A・A・ミルン著「小熊のプー公」
松本恵子訳、新潮文庫、1941年(昭和16年)9月25日



キャラクターとして我が国でも圧倒的な人気を誇る「クマのプーさん」。作者・ミルンの児童文学が日本に伝えられたのは、昭和初年に松原至大が童謡を訳出したのが嚆矢だといふ。

②「茂田井武 没後50年展」/5月3日~7月30日

③「再発見!『講談社の絵本』の漫画世界」/8月2日~10月29日(監修:宮本大人・北九州市立大学准教授・05年度特別研究員)

④「大阪発!子どもの文化!子どもたちはこんな本にかこまれていた」/11月1日~2月12日(協力:浅岡靖典・日本児童教育専門学校専任講師・06年度特別研究員/加藤理・東京聖徳大学准教授)

⑤「ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品展」/3月1日~30日
これまでの展示を元にした、公共図書館用展示パックを貸出しています。「ピーター・パンの世界」、「フランダースの犬」ネロとパトラッシュのさまざまな姿と、「イギリス生まれの伝承童謡マザーグース」の3つです。

その後新美南吉らによっても訳されたが、幼年童話は昭和15年の石井桃子訳「クマのプーさん」(岩波書店)が初訳。

本書「小熊のプー公」は、石井訳の翌年に刊行されたもので、比較的早い訳書である。石井訳に比べて見劣りがするといわれ、ミルン作品の訳文としては高い評価を得ていないが、ミルンのナンセンスやユーモアを基本的には生かしており、言論統制下の完訳としては貴重である。松本は明治34年生まれ、翻訳家で、早くから英文学を学び、児童文学ではオルコットやウエプスターの翻訳をしたことでも知られる。ミルン受容を考えるうえで重要な冊である。



「大阪発!子どもの文化! 子どもたちはこんな本にかこまれていた」展

公共機関等に当館資料を
展示用に特別貸出

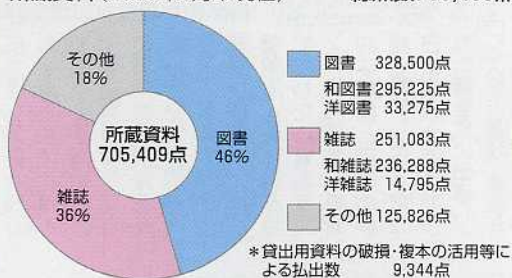
- 公共機関等の展示などに、当館資料全44件2071点を貸出しました。
- ①「第22回現代絵本作家原画展」/東広島市立美術館/5月~9月/「ハルとカミナリ」原画全13点
 - ②「武部本郎展」紙芝居からSFアイトまで」/弥生美術館/6月~10月/街頭紙芝居「海の鷹シーホーク」ほか全32点
 - ③「我がウイナス」初恋の女性木本威子と新美南吉」/新美南吉記念館/7月~9月/新美南吉差出河合弘宛葉書全一点
 - ④「のりものと絵本の世界」展/交通科学博物館/7月~9月/「でんしやきしゃ」ほか全20点
 - ⑤「東京国際アニメフェア2008」/08年3月/手塚治虫「怪人コロンコ博士」ほか全6点

That's IICLO

所蔵資料統計平成19年度(2007年度)

所蔵資料(2008年3月末現在)

総点数705,409点



増加資料(2007年4月~2008年3月)総点数 16,086点

